

## 「最終講義」と京ちゃん

私の「最終講義」が2月22日（土）2時から、学部でいちばん大きい201教室で行われた。

卒業生が撮ってくれた写真にみられるように、寒さ厳しい土曜午後にもかかわらず、学部生や院生、卒業生、教職員、市民の方など大勢の人に来ていただいた。この日までは、どれだけの人に参加してもらえるか不安であったが、続々と教室に入ってくる人を見て、まずは感激したものである。私にはもったいないほどの、35年の教員生活の「卒業式」にふさわしい催しとなった。「最終講義」については写真を交えて書きたいことが山ほどあるが、ここでは京ちゃんについて書くことにしたい。



下記の投稿は3月18日の中日新聞朝刊「発言」欄に掲載されたものである。これを読んでもらうと、京ちゃんとの出会い、「最終講義」と京ちゃんというレポートの表題がわかってもらえると思う。「最終講義」の最後に、どんどん新聞に投稿して「発言」しようと訴えたが、それを自ら実践したわけである。掲載日には、朝早くから新聞の到着を待ち、京ちゃんご家族と一緒に「発言」を読んだという。あとからメールで知って、それこそ感謝、感激したものである。

京ちゃんは元気に学校に通って勉強している。授業の様子や水泳の練習など、メールで写真を送ってもらうと、なんだか元気が出てくる。「京ちゃんブログ」から、3年になってからの朝の登校の様子わかる。このブログには、「最終講義」のことも写真付きで詳しく紹介されている。また、京ちゃんご家族の「歩み」、京ちゃんの成長を知ることができる。昨年が続いて、今年の大学祭にもぜひ来てもらいたい。その時は一緒に大学祭をじっくりと見学したい。今から大学祭（市大祭）が楽しみである。

(2014年7月31日)

## 京ちゃん招き 最終講義

山田 明 大学教員

(名古屋市千種区) 65歳

私の「最終講義」に、人工呼吸器を付けながら普通学級に通う林京香ちゃんが参加してくれた。

にも来てもらった。学生たちは京ちゃんの通る道をあけてくれた。頑張り屋の京ちゃんの姿を見て、感銘を受けた学生も多かった。

小学二年の京ちゃんは両親やボランティアの支えのもと、元気に学校に通っている。クラスの仲間にも溶け込んでいるようだ。体育のドッジボールで外野を務め、同級生たちはボールが当たりそうになると前に立って守ってくれたという。

卒業生から紹介されて京ちゃんと知り合い、大学祭

障がいのある人が地域の学校に通い、当たり前にな生活できるような地域社会を願いたい。私は京ちゃんに出会って生きる「勇気」をもらった。私の「最終講義」を緊張しながら聞いた京ちゃん。大学の雰囲気にも親しんでもらえたと思う。

三十五年の教員生活を締めくくるにふさわしい「最終講義」となった。